

2027年国際園芸博覧会 環境影響評価準備書に関する補足資料

<補足資料内容>

- 28 サステナビリティ戦略における温室効果ガスの削減等に関する取組について

令和6年2月

28 サステナビリティ戦略における温室効果ガスの削減等に関する取組について

ご意見の趣旨

温室効果ガスにおけるサステナビリティ戦略について、環境の保全の措置に明記をするというのは、事後に検証した結果を公表していく旨を文章に追記するということなのか。評価書段階で、そのように書いていくということなのか（第13回環境影響評価審査会（12月6日）でのご意見）。

事業者の見解

サステナビリティ戦略等は、国際園芸博覧会の開催を承認するAIPH（国際園芸家協会）^{※1}が、博覧会主催者に策定するよう義務付けた要求事項で、基本方針、及び目的と目標（脱炭素やエネルギーなど）を博覧会主催者が設定し、具体的な取組等を記載して、進捗管理を行うことになっています。

AIPHの規則等では、博覧会の持続可能性の目標等を示す、サステナビリティ戦略とその実施計画を開催の3年前までに策定することになっており、策定後は、AIPHに提出して約半年程度の審査を経て承認等を受けることになります。

本博覧会協会としては、有識者からなる「持続可能性有識者委員会」を設置して、専門的視点からご意見等をいただくとともに、国、神奈川県及び横浜市等の関係者と協議しながら、2024年3月の策定・公表を目途に作成を進めています（現時点での検討状況：表28-2～4）。

本博覧会の準備書においては、AIPHの規則等に基づきサステナビリティ戦略等を策定し、温室効果ガスの削減等に関する取組を進めていくことを記載していますが、審査会でのご意見を踏まえ、評価書においては、同戦略等を策定・公表するとともに、サステナビリティレポート^{※2}についても公表することを追記します（表28-1）。

※1 国際園芸博覧会の開催承認を行う主体。

※2 AIPH規則等に基づき、AIPHに提出する報告書。

表28-1 評価書での修正箇所

項目	工事中・開催中・撤去中
環境保全措置の実施による温室効果ガスの削減	<ul style="list-style-type: none">準備書本文（p. 6. 1-43）の下記内容を評価書では追記します。 本博覧会では、AIPHの規則等に基づき、サステナビリティ戦略等を策定・公表するとともに、<u>サステナビリティレポートについても公表して</u>、更なる温室効果ガスの削減等に関する取組を進めていきます。

※準備書から修正した箇所は、太文字・下線で示しています。

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

表28-2 サステナビリティ戦略の目的（案）

5つの目的	具体的な取組例
1 気候変動対策	<ul style="list-style-type: none"> 計画地周辺における自然環境との連続性を持った緑のネットワークの構築 GREEN×EXPO 2027の脱炭素化の推進
2 生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラを基軸とした会場計画の検討 環境アセスメント（環境影響評価）の適切な実施
3 サステナブルな調達と資源管理	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用
4 公平性と包摂性	
5 サステナビリティ教育と意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信を意識した展示解説・修景植栽の検討

表28-3 サステナビリティ戦略の目標（案）

12の目標	具体的な取組例	12の目標	具体的な取組例
1 生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> グリーンインフラを基軸とした会場計画の検討 環境アセスメント（環境影響評価）の適切な実施 	7 建設	<ul style="list-style-type: none"> 将来公園施設の積極的な活用 持続可能性に配慮した調達コードの策定・運用
2 水環境	<ul style="list-style-type: none"> 灌水消費量の削減 	8 デザイン・計画	<ul style="list-style-type: none"> 設計配慮指針の策定
3 脱炭素	<ul style="list-style-type: none"> GREEN×EXPO 2027の脱炭素化の推進 	9 交通・会場内移動	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通等による会場アクセスの向上 ユニバーサルデザインの導入
4 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー100%の電気の調達 省エネ型の設備の導入 建築のパッシブデザイン導入 	10 海外からの参加者（外国政府・国際機関等）	<ul style="list-style-type: none"> 公式参加者（外国政府・国際機関等）向けウェブページの開設
5 公害対策	<ul style="list-style-type: none"> 環境アセスメント（環境影響評価）の適切な実施 	11 サステナブルなイベント運営	<ul style="list-style-type: none"> ESMS（イベント・サステナビリティマネジメントシステム）の構築（ISO20121の認証取得・運用） 食品ロスの削減の推進 プラスチック等の使い捨て容器の削減
6 廃棄物と解体	<ul style="list-style-type: none"> 「GREEN サーキュラー建築」による循環経済の推進 3R+Renewableの推進 	12 レガシー	<ul style="list-style-type: none"> 博覧会施設の公園への継承 博覧会の持続可能性に関する取組の継承

表28-4 サステナビリティ戦略の目標と指標【抜粋】（案）

目標	指標
3 脱炭素	
脱炭素化に向けた温室効果ガスの排出削減	温室効果ガスのスコープごとの排出量※
4 エネルギー	
建築のパッシブデザイン導入	建築のパッシブデザイン導入
省エネ型の設備の導入	省エネ型の設備の導入
再生可能エネルギーの最大限の活用	再生可能エネルギー電気の利用率

※スコープ1及び2については、排出対策により削減できないCO₂に関して、オフセットを実施し、実質排出量ゼロを目指します。